

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500212
法人名	新居浜医療生活協同組合
事業所名	あったかほーむ たかつ
所在地	愛媛県新居浜市高津町3番20号
自己評価作成日	平成24年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>施設ではなく、家であり、職員は家族であるという思いを事業所で統一し、自立支援に向けたケアの実現を行っている。 地域交流スペースとして別に部屋を設けており、誰でも利用できるように また利用者だけでなく運営会議、家族会議等を行う事で、家族の支えにもなれるように職員全員で意思統一を図っている。 地域交流スペースとして、別の部屋を設けており誰でも利用できる場の提供を行っている。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>近々、法人全体の取り組みとして、公民館にて、「認知症フォーラム」を開催する予定となっている。法人内の職員で力を合わせ地域の方達に認知症を知ってもらうための寸劇を行われたり、さらに、職員が認知症高齢者役になり、地域の中に出て行き、実際に地域の方達に対応してもらうという取り組みも行われ、地域の方達が体験しながら認知症を理解できるよう、工夫ある取り組みを重ねておられる。 事業所は、はじめから手すりを付けるのではなく、家庭的な雰囲気の中で、利用者が壁や棧、いすや家具等を伝って移動したり、職員が手引きする等して暮らしてみ、必要に応じて手すりを付けることを考えておられる。トイレと居室は、入口の戸の色を変えて目印とされ、現在は、場所間違いをする利用者はおられないようだ。居間にはピアノがあり、演奏会を行ったり、ご家族が披露してくださったり、又、利用者のお孫さんが来た時には弾いて聞かせてくれる。目の不自由な利用者には、ご自分の座席の位置を決めておられ、いつも同じ動線で移動できるように配慮されている。交流ルームは、外からも入って来られるようになっており、近所の方の写真の作品が飾られている。台所もあり、現在、利用者はおやつやお茶を楽しんでおられる。交流ルーム前には、幼稚園バスが停まり、調査訪問時には、事業所の飼い犬と遊んで帰る子どもの様子も見られた。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 あったかほーむ たかつ

(ユニット名) 1階 ・ 2階

記入者(管理者)

氏名 松下 慎介

評価完了日 平成24年 1月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 医療生協の理念と当ホームの理念を取り入れ、利用者と家 族が安心して楽しく生活が送れるような理念を共有してい る。	
			(外部評価) 利用者が事業所で暮らす様子を見ながら、ユニットの責任者 で話し合い、事業所理念を作成された。事業所理念は、法 人理念に基づき、グループホームの特徴等も踏まえて「生活 そのものをリハビリとし、自立支援と心もケアに努める」こと等 を掲げておられる。管理者は、職員に対して「理念に沿っ て、個々で一日の目標を立てて取り組んでほしい」ということ を話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 散歩や外出の際、地域の方との挨拶や公民館の行事にも参 加している。。ワークキャンプの受入れ等も行い、中、高生と の関わりも持っている。同じ敷地内にある診療所やデイサー ビスの行事にも参加し地域の方との交流を図っている。	
			(外部評価) 事業所は法人の診療所の敷地内に開設されていて、事業 所が開設したことで地域の方からの問い合わせや相談もあ り、職員はゆっくりお話をお聞きして入居案内されたり、地域 包括支援センターや他の事業所につながりされた。又、事 業所内の和室のスペースには、法人の鍼灸治療院が出張し て来られ、利用者だけでなく、地域の方も治療を受けに来ら れ、訪れる方に事業所内を見てもらう機会にもなっている。 調査訪問時、近所の方が勝手口から来られて、利用者とお しゃべり等され、昼食も一緒に食べて帰られる様子が見られ た。時には、お庭のお花を見せていただいたり、又、野菜を いただくこともある。4月には事業所の1周年記念を行うことを 計画されており、フリーマーケット用に地域の方が余剰品を 集めてくださっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 認知症フォーラムというものを開催し、地域の方に認知症の 方への理解や事例を劇を通して知ってもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で話し合った事は次の運営会議にて報告している。 そこで職員とも話し合いを行い、活かせるようにしている。	会議の定期開催の工夫や、地域と事業所がさらに知り合うことができるような会議内容、メンバー等も工夫していかれてほしい。又、会議への利用者の参加もすすめていかれてほしい。管理者は今後、利用者が小さい子ども達とふれ合うような機会作りを考えておられる。会議を通じて、地域の力を探り、ネットワークを拡げていかれてほしい。
			(外部評価) 事業所では会議を「地域とのかかわりを大切にする会議」にしたいと考えて取り組みをすすめておられる。会議は、家族会と合わせて行われたり、ピアノ演奏会を組み合わせで行っておられる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当の方、家族、地域の方等に参加して頂き、情報や今後の課題についての話し合いを行っている。	月に1回、市内のグループホームの集まりがあり、職員も参加して意見交換をされている。又、運営推進会議時には、市の担当者から市内の介護の現状を話していただき、地域の方やご家族が現状を知るような機会にもなっている。近々、法人全体で取り組んでいる「認知症フォーラム」を公民館にて開催する予定となっている。法人内の職員で力を合わせ地域の方達に認知症を知ってもらうための寸劇を行われたり、さらに、職員が認知症高齢者役になり、地域の中に出て行き、実際に地域の方達に対応してもらうという取り組みも行われ、地域の方達が体験しながら認知症を理解できるよう、工夫ある取り組みを重ねておられる。
			(外部評価) 月に1回、市内のグループホームの集まりがあり、職員も参加して意見交換をされている。又、運営推進会議時には、市の担当者から市内の介護の現状を話していただき、地域の方やご家族が現状を知るような機会にもなっている。近々、法人全体で取り組んでいる「認知症フォーラム」を公民館にて開催する予定となっている。法人内の職員で力を合わせ地域の方達に認知症を知ってもらうための寸劇を行われたり、さらに、職員が認知症高齢者役になり、地域の中に出て行き、実際に地域の方達に対応してもらうという取り組みも行われ、地域の方達が体験しながら認知症を理解できるよう、工夫ある取り組みを重ねておられる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体的拘束はしない、できないということを職員に周知徹底している。 掲示板にも身体的拘束についての取組みを掲示している。 権利擁護や身体拘束の研修会を事業所内でも行う必要がある。	これまでには、利用者がお一人で出かけて行かれたこともあったようだ。無事に見つけれられたが、職員は、地域との協力体制の必要性を感じられ、今後さらなる地域との関係作りに取り組みたいと考えておられた。玄関にはセンサーが付いていて、人の気配を察知してチャイムが鳴るようになっている。
			(外部評価) これまでには、利用者がお一人で出かけて行かれたこともあったようだ。無事に見つけれられたが、職員は、地域との協力体制の必要性を感じられ、今後さらなる地域との関係作りに取り組みたいと考えておられた。玄関にはセンサーが付いていて、人の気配を察知してチャイムが鳴るようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 個々に色々な所で研修を受けているが、事業所内でも研修会を開き、職員の共有認識を図る必要がある。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 個人的に研修に参加している職員もいるが、これを機に研修を開き、理解していけるように努める。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に面接を行い、施設見学と説明を行っている。又、家族、ケアマネ等と一緒に見学に来られた時も丁寧に説明を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた時に家族等に意見要望を聞く機会を持っている。それに対して職員全員で話し合いを持ち対応している。 (外部評価) ご家族の来訪時、職員は利用者の日頃の様子をお話されたり、介護記録を見ていただけるようすすめ、「してほしいことや気になることがあったら遠慮なく言ってくださいね」と声をかけておられる。利用者のインフルエンザの予防接種等には、事前にご家族にお知らせし、利用者の状態によっては、ご家族に問診票やサインを書いてもらっている。ご家族から「普段どんなものを食べているの？」と質問があったことをきっかけに、毎月のお手紙とともに、すべてのご家族に毎月の食事内容を報告することにされた。又、季節ごとに事業所便りを発行し、お誕生日の様子や外出等の写真を載せてご家族に送付されている。	今後、ご家族の実情に合わせた報告の工夫に取り組み、ご家族が知りたいことを報告できるよう、取り組みに工夫されてみてほしい。家族会には、現在5～6名の参加があり、活動報告や事故報告をされている。ご家族の希望等もうかがいながら家族会の内容等も工夫を重ね、ご家族と協力し合ったり、関係作りへの取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月運営会議を実施し、職員の意見を聞く時間を持つようにしている。 日々の業務の中で気づきを申し送りノートに記入し見直している。	
			(外部評価) 事業所便りは、職員で持ち回りで作成されている。管理者は、「職員の自主性を大切にしたい」という思いを持っておられ、「気付く力・考える力」を育てられるように、今後さらに、外部研修の受講をすすめ、職員のレベルアップをすすめたいと考えておられる。さらに今後は、事業所内の勉強会やサービス評価の取り組み等も活かして、職員の気づきを引き出していかれてほしい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) それぞれ個別担当を行い、行事・楽しみなどケアプランを作成してもらい、事前に計画にそって人員の増員を行うなどの対応をしている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内を掲示し参加できるよう体制を整えている。又、研修報告書を作成し他の職員にも回覧し知識の共有を図っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域の研修等に参加している。又、グループホーム同士の話し合いや関係事業所の会にも参加している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まずその人との信頼関係が早くできるように心掛け、話を傾け聞くように努めている。その中から不安や要望を聞き、気づき見守りの中から安心して頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			家族の方に時間を取って頂き、契約内容や、金銭面、医療といった事を事前に説明し不安を解消している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			本人と家族の意見に違いがある時は時間をかけ話しを聞き、入所が困難な時には他のサービスの利用について説明をしたり、サービスを初めて利用する際は内容の説明を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			できる限り自分でできる事はしてもらうようにし、洗濯物をたたくてもらったりしている。一緒に行う事で今までの生活を大切にしている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			受診等できる限り家族へ依頼し関わりが取れる時間を共有できるように努めている。 家族、本人の希望を聞き、散歩や買い物、社会資源を利用したの娯楽など家族との外出、食事会なども実行し職員、家族との交流も実施する。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			入所前に行きつけにされていた美容院やかかりつけの病院等、その方の希望を尊重し、なじみの関係が保てるようにしている。 交流室を利用して身近な人や近所の人達との交流も深めている。	
			(外部評価)	
			遠方に住むご家族が戻って来られる際には、利用者もご自宅で泊まり、ご家族と一緒に過ごされるような方もいる。以前から大切に付けておられる首飾りがある方や、携帯電話でご家族とお話する方等、それぞれにとって大切にされていることを、事業所でも大切に考え支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の状態に応じたコミュニケーションの方法を考慮し、時には職員が間に入り交流の場を持つようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者の体調悪化により入院などした時は、本人、家族の心身共に相談に応じて職員のできる範囲の支援をしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や今までの生活の中での暮らしを把握し、ストレスのない様に支援している。 (外部評価) 事業所では「利用者が自宅に戻れる」ことを前提にした支援に努めておられる。時々、職員が同行してご自宅に戻り、数時間過ごすことを支援している方もあり、食器やしつらえを見て、ご本人の好みや暮らしの様子等を知ることにも努めておられる。	介護度が重度の利用者も多く、以前の様子をお聞きすることが難しいような場合もあり、職員はご家族とゆっくりお話して情報収集するような機会も作りたいと考えておられる。又、日々の中で利用者が選んだり決めたりするような場面を積極的に作る等して、習慣や嗜好等についても情報を集め、ケアの拠り所とされてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 共同で生活している中で一人ひとりの性格や暮らし方などが見えてくる中で話を聞いたり、今思っている事などを聞き職員全員が把握するようしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の体調・心身状態は職員の引継ぎにも記録し、職員全員で把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>必要に応じてカンファレンスで話し合い、より良い計画作成が出来る様に職員が協力している。</p>
			(外部評価)	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	<p>日々の記録は出来る限り詳細に記録し、申し送りノートの活用を行い実践につながる様にしている。</p>
			(外部評価)	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	<p>利用者の家庭状況の変化により出来ることは職員が対応している。 利用者本人が望んでいる事についても家族と連絡を密にし、動いている。</p>
			(外部評価)	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	<p>ボランティアによるピアノ演奏会、隣接しているデイサービスの行事にも参加している。 又、当ホームでは犬を飼っているため、犬とのふれあいの機会を持っている。</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医による定期的な往診や定期受診も利用者の症状に応じて通院介助を行い、定期受診以外も家族と連携を行い適切に医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 受診には、ご家族が付き添われたり、ご家族の都合によっては職員が同行されている。受診の必要を感じるような時には、ご家族に利用者の状態を報告して相談してから受診されている。受診時には、利用者の日々の心身の様子を記した「サマリ」を持参して、医療機関からも、受診結果を書いていただいている。ご家族が付き添う際にも、利用者の状態によっては、職員が同席してお話を聞くようにされている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師に報告、連絡、相談をし、指示を仰いでいる。利用者の変化については職員全員で情報を共有し、対応している。訪問看護ステーションに毎日健康管理表を提出し、利用者の状態を把握してもらい、連携を取り、緊急時に備えている。	
			(外部評価) 入院時に速やかに連携できる様な体制作りに努めている。入院時の説明も家族と聞き、診療方針の把握に努め、退院時の対応を考えている。また入院中は定期的の病室訪問し、状態の確認をしている。家族、医師との連絡をしっかりと行い、受入れ体制を整えている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時に速やかに連携できる様な体制作りに努めている。入院時の説明も家族と聞き、診療方針の把握に努め、退院時の対応を考えている。また入院中は定期的の病室訪問し、状態の確認をしている。家族、医師との連絡をしっかりと行い、受入れ体制を整えている。	
			(外部評価) 利用者の重度化については、本人、家族、医療機関などの人と協議・検討し、その人らしい生活が出来る様に支援を行うようにしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(外部評価) 入居時から介護度が重度の利用者も多数おられ、又、持病のある利用者も多い。事業所は、法人医療機関や訪問看護ステーションとの連携により、「利用者が満足して厳かに死を迎える場となるよう努める」ことを重度化・看取りに関する指針に明示して、取り組みをすすめておられる。調査訪問時には、体調が思わしくない利用者が点滴を受けながら食事をされている様子も見られた。	
			(自己評価) 利用者の重度化については、本人、家族、医療機関などの人と協議・検討し、その人らしい生活が出来る様に支援を行うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生などの緊急時にどの様に対応するかマニュアルを決めてロールプレイングを実施している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、避難連絡の確認の実施、その他地震や津波に関する避難方法や避難場所の確認を行っている。また、地域の方にも協力の依頼を行っている。 (外部評価) 夏には運営推進会議で災害対策について話し合い、メンバーからアドバイスをいただいた。アドバイスをもとに秋には、事業所独自で火災を想定した避難訓練を利用者とともに、2階ユニットは、外階段から避難する訓練が行われた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、考え方や誇り、プライバシーを損なわない様な人格を尊重するに価する言葉かけや対応に徹底して努めている。 (外部評価) 職員は、利用者によく話かけることに努めておられる。目の不自由な利用者には、職員は肩や背中に触れながら話しかけておられ、食事時には、職員が食事の内容を伝えてから、食事をお椀に移し、ご本人がお椀を持ち上げてご自分の力で食事をされていた。利用者の前向きな考え方に職員は「教えてもらうことが多い」と話しておられた。職員は笑顔で利用者に接しておられるが、ユニットによっては、言葉かけや対応に利用者の立場から配慮が必要と感じるような場面も見受けられる。時には、職員の気付きを持ち寄り、「その人の尊厳を守ります」という理念にも沿って、点検したり話し合うような機会を作ってみてはどうだろうか。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者じっくり時間をかけてコミュニケーションを図り、利用者が落ち着いて暮らせる環境になるよう、優しい声掛けを日頃から心がけて支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切に、利用者の希望に添えるよ うに実施している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 外出等、特に気をつけている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個人の好みに合わせて量、大きさ、食材等を気をつけて盛り 付けている。食欲のない利用者には声掛け等で少しでも食 べてもらえる様支援している。 準備、片付け等も出来る範囲で一緒に行っている。	
			(外部評価) 調理専門の職員をユニットに1名ずつ配置して、事業所で食 事作りをされている。午後から、食材の買い出しに利用者 と出かけられたり、調査訪問時は、もやしの根とりをして くださっている利用者もみられた。台所は流し台とカウンタ ーがフラットになっていて、利用者が長時間過ごすテー ブル席から台所がよく見え、食事ができる様子やにおい 等も楽しめる。食事の時間になると自然と利用者が集ま って来られるようだ。職員は、利用者の間に座って同じ ものを一緒に食べながら、介助されたり食事の感想等 を聞いておられた。近所の方がくださったサラダ菜が おらずに添えられていた。食後は、利用者の方がコー ヒーを入れてくださり、又、職員とおしゃべりしなが ら洗い物したり台拭きをされている様子もみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量の記録を実施し、職員間で把握して いる。摂取量や栄養バランスをチェックしながら一人 ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。 飲み込みが悪い時はボカリ、茶寒天等で対応して いる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアの実施。出来ない利用者には介助 している。 夜は義歯の消毒を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を記入し、利用者の排泄リズムを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている、紙パンツやパッドを使用している場合、日中はトイレで排泄するように時間を決めて誘導している。	
			(外部評価) 職員は、利用者の様子やタイミング等をみながら声かけされたり誘導して、トイレで排泄できるよう支援されている。事業所内は、居室出入り口近くにトイレがある造りになっており、又、トイレが居室内に造られている部屋もある。そのような環境が、夜間もできるだけトイレで排泄することにつながっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量を記入し、水分補給を行っている。おやつ時間にホットミルクを飲んだり、食事では野菜や繊維質の多い物など、バランスのよい食事を行っている。また、体操や天気の良い日は散歩を行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や体調など、個々に応じた対応や声掛け等でゆっくりと入浴している。浴槽に入る事が出来ない人は冬場はシャワーだけでなく、足湯をしたり、浴室暖房をつけて暖かくしている。	
			(外部評価) 一般家庭のような浴槽で、左右に可動するようになっており、利用者が浴槽に入りやすい方向にセットして、補助具等も使用しながら入浴を支援されている。職員は、重度化するほどに、入浴の大切さを感じておられ、利用者一人ひとりにゆっくりかわりながら、1日おきに入浴できるよう支援されている。毎日入ることを希望される利用者は現在おられないが、希望があれば対応できるようになっている。今後は、ゆず湯や入浴剤の使用等も検討して、利用者がより入浴を楽しめるよう、取り組んでいきたいと話しておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間は一人ひとり違うので個々のリズムで入眠できるようにしている。介助の必要な利用者はいつも同じ時間に入眠できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋を個人ファイルに保管し、職員がすぐに確認できるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事など出来るだけ手伝ってもらうように支援している。希望に応じて事業所の行事に参加して頂き、楽しんで頂けるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて散歩や買い物、外出に出かけられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の中には、知人と一緒に外出に出かけたり、公民館の俳句の会へ出かける方もおられる。現在、利用者からは外出の希望が多く、計画を立ててレストラン等に出かけておられる。 事業所では「もっと地域の中に出かけていきたい」と考えておられる。近くの喫茶店等にも出かけてみたいと話しておられた。利用者がちょっと出かけ楽しめるような場所を見つけ、利用者の生活の楽しみや拡がりを支援していかれてほしい。又、外出支援については、ご家族の要望等も聞いてみるような機会も作ってはどうか。ご家族や地域の方も一緒に楽しむような機会も作ってはどうか。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金を自分で持たれている利用者には買い物に行った時などご自身で支払ってもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持っている利用者は家族や友人に自由に電話して頂いている。希望された方に対して施設の電話を使用して頂き対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の意見を出来るだけ取り入れて、テーブルの配置や座る位置を変えたり落ち着いて頂けるようしている。 季節の花を飾ったり、季節に合わせ装飾を行い、季節感を感じてもらおうとしている。	
			(外部評価) 事業所は、はじめから手すりを付けるのではなく、家庭的な雰囲気の中で、利用者が壁や棧、いすや家具等を伝って移動したり、職員が手引きする等して暮らしてみ、必要に応じて手すりを付けることを考えておられる。トイレと居室は、入口の戸の色を変えて目印とされ、現在は、場所間違いをする利用者はおられないようだ。居間にはピアノがあり、演奏会を行ったり、ご家族が披露してくださったり、又、利用者のお孫さんが来た時には弾いて聞かせてくれる。目の不自由な利用者には、ご自分の座席の位置を決めておられ、いつも同じ動線で移動できるように配慮されている。交流ルームは、外からも入って来られるようになっており、近所の方の写真的作品が飾られている。台所もあり、現在、利用者はおやつやお茶を楽しんでおられる。交流ルーム前には、幼稚園バスが停まり、調査訪問時には、事業所の飼い犬と遊んで帰る子どもの様子も見られた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを配置し、利用者同士がゆったり話したりテレビを見たりできるようにしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は本人又は家族の希望により、家具や使い慣れた物を持ってきてもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室は畳やフローリングの間があり、ご本人の状態に合わせてベッドを置いたり、ご自宅で暮らしていたように畳の間に布団を敷いて休む方もいる。各居室には洗面台が設置されており、鏡も付いていて、個々が整容されたり、歯磨き等をされている。花瓶にお花を飾っておられた。調査訪問時、利用者は雪が降って来たことに気付かれて、自室の窓の外に干していた洗濯物を職員と一緒に取り込んでおられた。位牌を持ち込んでおられる方やご自宅からタンスを持って来られていたり、写真を枕元に置いておられる方もみられた。遠方に住むご家族には、居室に泊まることも可能であることを伝えておられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、浴室などに手すりを配置し安全に過ごしてもらえるよう工夫している。	